

大学のサークルで男子だけ水着禁止の混浴温泉へ！

僕たちサークルのメンバーは、大学3年の秋に2泊3日の旅行を計画した。行き先は山奥にあるあまり知られていない温泉地で、ネットの口コミに「独特なルールがあるけど雰囲気抜群」とあったのが決め手だった。メンバーは男子4人、女子4人の計8人。僕（高志）、優樹、正人、涼の男子組と、夏美、彩花、美穂、由香の女子組だ。サークルでは普段から仲が良かったし、旅行も初めてじゃないから、みんな気楽な気持ちで出発した。

バスで数時間揺られ、夕方近くに宿に到着した。古い木造の建物で、屋根には苔が生え、玄関には提灯が揺れていた。どこか時代を感じさせる風情があったけど、薄暗さ

が少し不気味でもあった。女将さんは60代くらいの穏やかな人で、「ようこそおいでくださいました」と丁寧に挨拶してくれた。荷物を部屋に運び、男子は2階の角部屋、女子は1階の庭に面した部屋に案内された。荷物を置いて浴衣に着替える前に、優樹が「温泉楽しみだな」とワクワクした声で言った。正人は「変なルールって何だろな」と少し不安そうで、涼は「まあ温泉なら何でもいいよ」と楽観的だった。僕も「とりあえず行ってみよう」とみんなを促した。

脱衣所に着くと、壁に大きな紙が貼ってあるのに気づいた。黒いマジックで太字でこう書かれていた。

「当温泉は、女性のお客様は水着着用可、男性のお客様は水着着用禁止とさせていただきます。ご理解とご協力をお願いいたします。」

「マジかよ！」優樹が大声で笑い出した。
「男子だけ全裸ってどういうことだよ」

「差別じゃねえか？女子は水着OKって」と正人が眉をひそめた。

「でもさ、女子の水着姿は見れるってことだろ？悪くないじゃん」と涼がニヤニヤしながら僕の肩を叩いてきた。確かにその通りかもしれないけど、女子の前で全裸で入るなんて考えただけで気まずさが込み上げてきた。

「高志、どう思う？」と優樹に聞かれたけど、「ルールなら仕方ないだろ」と誤魔化して、タオルを手に持ったまま脱衣所を出た。タオルで隠せば何とかかなるかと自分を納得させたけど、心の中は緊張でいっぱいだった。

露天風呂に着くと、目の前に広がる景色に少し感動した。大きな岩が組まれた湯船がいくつもあって、湯気が立ち上り、周囲は竹林に囲まれている。夕暮れの薄暗い光が湯気と混じり、幻想的な雰囲気だった。湯船の温度は熱すぎず、ちょうどいい温かさ

で、確かに気持ち良さそうだった。僕らはタオルで前を隠したまま湯船に近づき、タオルを外して素早く浸かった。水面が揺れて下半身を隠してくれるから、少し安心できた。

「うわ、気持ちいいなこれ」と優樹が湯船の中で伸びをして言った。正人も「確かにいい湯だ」と目を閉じてリラックスしてる様子。涼は「温泉最高だな」と笑顔で湯船の縁に腕を乗せていた。女子組はまだ来てなかったから、僕らは少しだけ落ち着いて湯に浸かれた。でもその平穏はすぐに終わりを迎えた。

「来たよー！」と夏美の元気な声が響き、湯船の向こう側から女子4人が現れた瞬間、僕らは全員動きを止めた。